

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
<p>1 安心で希望に満ちた暮らしの創造 【施策1】家族や地域の強い絆が息づく地域づくり 施策1 - 家族や地域の絆が息づくコミュニティの創造</p>	<p>347,523</p>	<p>318,014</p>	<p>1 南阿蘇村立野地区地域再生等支援事業 (1) 立野地区の地域再生支援 平成29年度に策定した「集落再生に向けた基本構想」を実現するため、安全安心な集落づくりに向けた取組みを実施。具体的には、防災セミナーの開催や予防的避難の周知、避難所の環境改善、防災マップの作成などを実施した。 (2) 東海大学農学部阿蘇キャンパス再開支援 阿蘇キャンパスに100人規模の講義室を有する農学実習場が完成し、充実した教育活動が再開した。 さらに、環境省、県、東海大学の三者で締結した協定に基づき、「南阿蘇村黒川地区創造的復興プロジェクト」に取り組んでおり、学生と住民との交流促進を柱とした実施計画を策定した。 2 地域づくりチャレンジ推進事業 熊本市の政令市移行後を見据えて策定した「政令指定都市誕生後の県内各地域の将来像」に沿って、市町村や地域住民等が地域を元気にするために自主的に行う地域づくりの取組み及び複数市町村等が連携・協働する広域的な取組みに対し、総合的な支援を実施した。 (1) 市町村や住民の自主的な地域づくりに対する支援 補助件数52件、補助額109,424千円の支援を行った。 移住の促進分野 ・宇城市による魅力発信・移住定住促進事業等 起業の誘発分野 ・阿蘇市の地域団体による間伐材を使った新生産拡大事業等 交流の拡大分野 ・玉名市による金栗四三PR推進事業等 絆の構築分野 ・玉東町による高齢者等生活支援サービス体制の構築等 (2) 複数の市町村等が連携・協働する広域的な地域づくりに対する支援 高森町と南阿蘇村が連携して実施した南阿蘇鉄道全線復旧祈念イベントの開催や、天草市、上天草市及び苓北町が連携して実施した世界文化遺産登録を記念したキャンペーンの展</p>	<p>計画調査費のうち P136 ~ P137</p>

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(施策1 - 家族や地域の絆が息づくコミュニティの創造)			<p>開など16件、94,403千円の補助を行うなど、積極的に広域連携の取組みについて支援を行った。</p> <p>(3) 県が行う地域づくり支援 県内の地域資源の掘り起こしや磨き上げなど、主として地域団体が主体的に行う、移住定住、雇用、交流拡大等の地域づくり活動を誘発、拡大する取組みで次年度以降の地域づくりの後押しとなるような事業17件を実施した。</p>	
<p>2 未来へつなぐ資産の創造</p> <p>【施策4】災害に負けない基盤づくり</p> <p>施策4 - 地域を支える公共交通網の復旧・整備</p>	1,256,462	991,822	<p>1 地方公共交通対策事業</p> <p>(1) 地方バス路線の維持 広域的・基幹的なバス路線を運行するバス事業者に対して補助金を交付した。また、路線バス等の維持やコミュニティバス、乗合タクシーの導入等、地域の実情に応じた取組みを支援するため市町村へ交付金を交付し、地域において必要な生活交通路線を維持した。また、県、熊本市、バス事業者により「熊本におけるバス交通のあり方検討会」を設け、バス路線網再編や運行体制の検討を開始した。</p> <p>(2) 生活航路維持緊急支援事業 県内離島等の生活航路に対して運航支援を行う市町へ補助金を交付し、生活航路の維持を図った。</p> <p>(3) 南阿蘇鉄道の全線復旧に向けた取組み 国や南阿蘇村とともに災害復旧費補助を実施し、犀角山トンネルの撤去等復旧工事を着実に進めた。</p> <p>2 益城テクノ団地生活交通支援事業 益城町テクノ仮設団地入居者が町中心部までの移動に利用する路線バスの運賃を負担し、被災者の生活を支援した。</p> <p>3 並行在来線対策事業 肥薩おれんじ鉄道が行う鉄道基盤施設の整備・維持に係る費用を補助し、安全かつ安定的な運行を確保するとともに、映画とタイアップしたPR活動、クルーズ船観光客を対象とするツアーの実施等により、沿線地域の交流人口拡大を促進した。</p>	<p>計画調査費のうち P137 企画施設災害復旧費のうち P403</p>

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果						目名																																			
(施策4 - 地域を支える公共交通網の復旧・整備)			【肥薩おれんじ鉄道利用人員の推移】 <table border="1" data-bbox="898 300 1890 475"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25年度</th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用人員</td> <td>1,390千人</td> <td>1,304千人</td> <td>1,243千人</td> <td>1,184千人</td> <td>1,171千人</td> <td>1,153千人</td> </tr> <tr> <td>定期外</td> <td>316千人</td> <td>299千人</td> <td>309千人</td> <td>260千人</td> <td>257千人</td> <td>255千人</td> </tr> <tr> <td>通学定期</td> <td>970千人</td> <td>894千人</td> <td>833千人</td> <td>822千人</td> <td>818千人</td> <td>799千人</td> </tr> <tr> <td>通勤定期</td> <td>104千人</td> <td>111千人</td> <td>100千人</td> <td>102千人</td> <td>95千人</td> <td>99千人</td> </tr> </tbody> </table>							H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	利用人員	1,390千人	1,304千人	1,243千人	1,184千人	1,171千人	1,153千人	定期外	316千人	299千人	309千人	260千人	257千人	255千人	通学定期	970千人	894千人	833千人	822千人	818千人	799千人	通勤定期	104千人	111千人	100千人	102千人	95千人	99千人	
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度																																						
利用人員	1,390千人	1,304千人	1,243千人	1,184千人	1,171千人	1,153千人																																						
定期外	316千人	299千人	309千人	260千人	257千人	255千人																																						
通学定期	970千人	894千人	833千人	822千人	818千人	799千人																																						
通勤定期	104千人	111千人	100千人	102千人	95千人	99千人																																						
2 未来へつなぐ資産の創造 【施策5】 地域の特性を活かした拠点・まち・観光地域づくり 施策5 - 熊本都市圏東部地域等における復興のまちづくり	251,882	250,151	1 阿蘇くまもと空港国際線振興対策事業(再掲)(P21)に記載 2 阿蘇くまもと空港創造的復興推進事業(再掲)(P22)に記載						計画調査費のうち P137																																			
施策5 - 地域資源を活かした観光地域づくり	363,632	334,933	1 地域づくりチャレンジ推進事業(再掲)(P14)に記載 2 「歩き」を活かした地域活性化プロジェクト事業 フットパス等の「歩き」を活かした交流人口拡大を図るため、地域コーディネーターの養成やWebサイト構築、Wawくまもと構想の普及啓発のための国際シンポジウムの開催等を実施した。						計画調査費のうち P136 ~ P137																																			
施策5 - 地域力を高める広域連携の推進	345,500	317,161	1 地域づくりチャレンジ推進事業(再掲)(P14)に記載						計画調査費のうち P136 ~ P137																																			
施策5 - 人口のダム効果を活かした地域づくり	1,241,608	980,606	1 地方公共交通対策事業(再掲)(P15)に記載 2 並行在来線対策事業(再掲)(P15)に記載						計画調査費のうち P137 企画施設災害復旧費のうち P403																																			
施策5 - 持続可能な地域づくり	345,500	317,161	1 地域づくりチャレンジ推進事業(再掲)(P14)に記載						計画調査費のうち P136 ~ P137																																			
施策5 - 移住・定住の促進	345,500	317,161	1 地域づくりチャレンジ推進事業(再掲)(P14)に記載						計画調査費のうち P136 ~ P137																																			
【施策6】 くまもとの誇りの回復と宝の継承 施策6 - 熊本城をはじめとした歴史・文化の再生・継承	73,564	68,342	1 世界文化遺産登録推進事業 本県の3つの資産について、世界文化遺産への登録及び登録後の適切な維持・保全を目指した取組みを実施した。						計画調査費のうち P136 ~ P137																																			

(企画振興部)

(単位:千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(施策6 - 熊本城をはじめとした歴史・文化の再生・継承)			<p>(1) 明治日本の産業革命遺産推進事業(万田坑・三角西港)</p> <ul style="list-style-type: none">・国・関係県市と連携したプロモーション活動やユネスコ世界遺産委員会からの課題対応に向けた検討等を実施 <p>(2) 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産推進事業(天草の崎津集落)</p> <ul style="list-style-type: none">・ユネスコの諮問機関イコモスの勧告やユネスコ世界遺産委員会へ適切に対応し、世界文化遺産の登録が実現・世界遺産登録を契機とした資産価値や魅力発信のため、空港・駅への看板設置や周知啓発イベント等を実施 <p>(3) 阿蘇世界文化遺産登録推進事業(地方創生推進交付金一部活用)</p> <ul style="list-style-type: none">・「阿蘇」の学術的な検討のため、有識者等で構成する学術委員会を開催・「阿蘇」の広報として、モデル校事業やレジデンスfor阿蘇世界文化遺産事業を実施 <p>2 くまもと文化魅力発信事業</p> <p>(1) 情報発信事業</p> <p>熊本の歴史・文化の魅力について広く情報発信するため、熊本の伝統文化、伝統工芸などについて紹介する小冊子を作成・県内外へ配布し、テレビ・新聞での紹介を行った。</p> <p>(2) 文化オリンピアド推進事業</p> <ul style="list-style-type: none">・熊本文化プログラム連携推進会議を設置し、開催・文化イベントの開催や伝統芸能披露、文化情報の発信 <p>3 「くまもと手仕事ごよみ」推進事業</p> <p>熊本の「手仕事」(伝統の工芸、食、芸能等)を、暦と結び付けて後世に継承する取組みを実施した。</p> <p>(1) ホームページ及びフェイスブックの運営</p> <p>ホームページや県民が参加するフェイスブックを運営し、地域の旬の情報を発信した。</p> <ul style="list-style-type: none">・ホームページアクセス数: 204,869人(平成30年4月1日~平成31年3月31日)・フェイスブック新規フォロワー数: 46人(平成30年4月1日~平成31年3月31日) <p>(2) 広報</p> <ul style="list-style-type: none">・伝統工芸館において、「くまもとの風合い展」(平成30年8月14日~19日)を開催し、伝統技術を現代に生かす作り手についての情報発信。(来場者1,127人)・キュレーターと一般参加の方を対象とした一勝地曲げワークショップ及び古町ランブリングを実施。(参加者24名)・「手しごと応援!企業」制度登録企業を2社追加し、企業の手仕事品活用事例を2例紹介。	

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(施策6 - 熊本城をはじめとした歴史・文化の再生・継承)			<p>4 県立劇場管理運営事業(ア トキャラバンくまもと事業)</p> <p>県立劇場が有するネットワークを活用して、音楽や演劇などの文化芸術を小・中・高等学校等に届けるなど、熊本地震からのこころの復興に繋がる取組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施場所 益城町、御船町、嘉島町、山鹿市、熊本市ほか県内各地 ・実施回数 70回 ・参加人数 6,686人 	
<p>施策6 - 阿蘇の草原など自然・景観の再生・継承</p>	<p>21,658</p>	<p>20,359</p>	<p>1 阿蘇草原再生事業</p> <p>阿蘇草原の次世代への継承を目指し、草原再生の担い手の裾野拡大や放棄地の野焼き再開等を実施した。</p> <p>(1) 多様な支え手の拡充</p> <p>「かばしまイニシアティブNEXT」に基づき、野焼き・輪地切りと草原を体感できる食や散策等をパッケージにしたバスツアー(118名参加)の実施を支援した。自衛隊OBの参画を得て、草原管理が困難である牧野への専門ボランティア延べ75名を確保した。併せて、火引き技術の継承等により野焼き後継者12名の育成を図った。</p> <p>(2) 野焼き再開支援</p> <p>高森町祭場牧野、阿蘇市檜木野南牧野など、約36haで野焼きの再開を支援するとともに、安全マニュアルを作成した。また、県の支援もあり、平成27年度に約半世紀ぶりに野焼きを再開(30ha)した草千里では、地元を中心とした体制により、草千里全体(約60ha)での野焼きが行われた。</p> <p>2 阿蘇草原保全・活用事業</p> <p>「国立公園満喫プロジェクト」に選定された「阿蘇くじゅう国立公園」において、新たな草原再生の支え手の掘り起こしとインバウンドの増加を実現するため、草原景観を活用したジャパンエコトラックのルート認定とその後の活用に向けた取組みに対する支援を実施し、平成30年2月に認定を受けたジャパンエコトラックルートの拡大(産山村、南小国町、小国町)が図られ、ルート周知のためのイベント「第2回ライドイン阿蘇」の開催を支援した。</p>	<p>計画調査費のうち P137</p>
<p>施策6 - スポーツを通じた熊本の誇りの継承と発信</p>	<p>10,183</p>	<p>10,180</p>	<p>1 ロアツソ熊本支援 県民運動推進事業</p> <p>平成21年2月に官民連携により設立された「ロアツソ熊本を」1へ」県民運動推進本部に対する負担金の支出を行い、次のような地域振興・街づくり事業を実施した。</p> <p>(1) 地域交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームゲーム会場において、県内市町村と連携し地域物産展の開催を支援 ・市町村等が行う地域イベントに選手等を派遣 <p>(2) 応援気運醸成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看板・フラッグを作成し、ホームゲーム試合会場周辺や駕町通り商店街等県内商店街に 	<p>計画調査費のうち P137</p>

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(施策6 - スポーツを通じた熊本の誇りの継承と発信)			<p>掲出</p> <p>(3) 広報事業 ・ポスター・カレンダー配布や、九州内チーム対戦時にスタンプラリー等の広報イベントを実施</p> <p>(4) サポーター等連携事業 ・サポーター等と連携し、県民との交流事業「ロアッソ熊本大忘望年祭」を実施</p> <p>2 ロアッソ熊本によるサッカー普及振興事業 県内におけるサッカーの普及、県民のサッカー技術の向上、子どもたちの夢づくりを促進するために、サッカー教室や交流事業（講演会、座談会、勉強会）を実施した。</p> <p>3 復旧・復興発信事業 県内プロスポーツチームの情報発信力を活用して、熊本の復旧・復興の姿を県内外に広く発信した。</p> <p>(1) ロアッソ熊本のホームゲーム復興支援マッチにおいて、県内被災地住民を招待した。</p> <p>(2) 熊本ヴォルターズのホームゲーム復興支援マッチにおいて、県内小中学生を招待した。</p>	
<p>3 次代を担う力強い地域産業の創造</p> <p>【施策9】自然共生型産業を核としたオープンイノベーション機能の確立</p> <p>施策9 - 復興の原動力となる新たな事業の創出と起業の促進</p>	98,378	91,560	<p>1 次世代ベンチャー創出支援事業 県、肥後銀行、熊本大学、熊本県工業連合会、(株)リバナスの5者で構成するコンソーシアムによる創業支援プログラム「熊本テックプランター」を運営・展開し、発掘したベンチャーの研究開発等を促進するため事業化可能性調査を実施した。</p> <p>2 ふるさと投資応援事業 被災中小企業者11件が事業再建等を開始するとともに、1件の事業計画作成等を支援した。また、ふるさと投資の周知・普及に向けたセミナーを県内外で4回実施した。</p> <p>3 水俣・芦北地域産業振興等推進事業 平成28年7月に策定した第六次水俣・芦北地域振興計画において、産業振興と雇用確保を最重要課題として位置づけており、県、地元市町、経済団体等で設立した「水俣・芦北地域雇用創造協議会」が中心となって、環境省の補助事業や、県単独の負担金等を活用しながら、以下の事業を実施し、「食と農」分野の事業者支援や交流人口の拡大、雇用創造に取り組んだ。</p> <p>(1) 異業種間連携・販路拡大支援事業 ・和紅茶のブランディング、食品関連展示商談会への出展支援等</p>	計画調査費のうち P137

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(施策9 - 復興の原動力となる新たな事業の創出と起業の促進)			(2) 水産物ブランド化支援事業 ・マガキ養殖の支援等 (3) 水俣・芦北地域ツーリズム推進事業 ・インバウンド誘客の推進等 (4) 人材育成事業 ・事業者向けセミナー、高校生就職支援(模擬面接会等)の実施等	
【施策10】地域資源を活かす観光産業の革新・成長 施策10 - 観光産業の革新と高付加価値化	65,250	42,445	1 くまもと版DMO推進事業 観光産業の再生・発展及び地域活性化を推進するため、観光地域づくりを広域的に担う株式会社くまもとDMCの運営を支援した。 2 「くまもとフリーWi-Fi」整備事業費補助金 観光客等の災害時における情報収集等のための安定した通信環境の確保を図るため、民間施設が設置する熊本県公衆無線LAN「くまもとフリーWi-Fi」の整備に対する補助を実施し、宿泊施設や公共交通機関等26か所を整備した。	計画調査費のうち P137
施策10 - 観光資源の再生と新たな魅力の創造による観光振興	582,934	551,130	1 地域づくりチャレンジ推進事業(再掲)(P14)に記載 2 並行在来線対策事業(再掲)(P15)に記載	計画調査費のうち P136 ~ P137
【施策11】地域を支え次代を担う人材確保・育成 施策11 - 教育環境の再生・充実及び大学等の研究機能の活用	174,264	80,320	1 「環境首都」水俣・芦北地域創造事業 水俣病関連施設、環境に対する高い市民意識や蓄積された環境産業技術、美しい自然など地域の有形無形の環境資源を発展的に活用した「環境負荷を少なくしつつ、経済発展する新しい形の地域づくり」(「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法の救済措置の方針」平成22年4月閣議決定)を目指すため、環境省の補助事業を活用し、以下の事業を実施した。 (1) ゼロカーボン産業団地創出等事業(水俣市、芦北町、津奈木町) ・水俣環境アカデミアによる環境学習の推進、海産物を利用した特産品の開発、耕作放棄地を活用した酒米づくり等の環境共生型農業の推進等 (2) 公共空間整備事業(水俣市、津奈木町) ・湯の鶴温泉街交流拠点公園整備、赤崎小学校跡地利活用に伴う交流広場整備	計画調査費のうち P137

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(施策11 - 教育環境の再生・充実及び大学等の研究機能の活用)			(3) 低炭素型観光推進事業(県、津奈木町) ・地域資源(薩摩街道、湯の児、エコパーク水俣)を活かした体験・交流型観光の推進、観光情報発信等	
施策11 - 復興を担う次世代の人材確保・育成	15,641	15,519	1 人材ネットワーク構築事業 主に首都圏に在住する熊本県に縁のある人材をネットワーク化し、その力を熊本の活性化につなげることを目的として、熊本コネクションプロジェクトを以下のとおり実施した。 (1) 熊本コネクションのさらなるネットワーク拡大と絆強化を目的として、具体的な取組みを実施。 ・大交流会、総会 ・業界魅力発信セミナー (2) 人材活用事業 ・会報誌発行 ・熊本の課題をテーマごとに検討し、熊本を成長させる「くまもとグローアッププロジェクト 熊本のミカタ」 ・高度人材を活用して熊本の課題解決に具体的に取り組む「くまもとエンボディメントプロジェクト」 (3) ホームページ・データベースの管理、機能強化 (4) LINE@を活用して10代から20代の若者をターゲットとした情報発信	計画調査費のうち P137
【施策11】地域を支え次代を担う人材確保・育成 施策11 - 若者の地方定着等の促進	948	683	1 ふるさとくまもと創造人材奨学金返還等サポート事業 若者の県内就職と定着、県内企業等の将来の中核を担う人材確保のため、県と県内企業等が協力し、就職する若者の奨学金返還やUターン等を支援する制度を創設した。	計画調査費のうち P137
4 世界とつながる新たな熊本の創造 【施策12】空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化 施策12 - 「大空港構想Next Stage」に基づく阿蘇くまもと空港の復旧・機能拡充	291,540	288,981	1 阿蘇くまもと空港国際線振興対策事業 平成28年4月の熊本地震で運休した国際線は、同年6月に定期便の運航が再開していた台湾高雄線、平成29年4月に定期便が再開したソウル線に加え、香港線も平成29年11月に定期チャーター便として就航後、平成30年5月に定期便化され、熊本地震前の3路線が全て定期便として再開した。	計画調査費のうち P137

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名																								
<p>(施策12 - 「大空港構想Next Stage」に基づく阿蘇くまもと空港の復旧・機能拡充)</p>			<p>さらには、平成30年冬ダイヤでソウル線の毎日運航が実現し、同年11月には新たに韓国大邱線が新規就航した。</p> <p>これにより、平成30年度の国際線利用者数は、約20万7千人(国速報値)となり、過去最高を記録するなど、阿蘇くまもと空港の創造的復興が加速化している。</p> <p>【阿蘇くまもと空港利用者数の推移】</p> <table border="1" data-bbox="913 448 1861 596"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内線</td> <td>3,055,112人</td> <td>3,163,477人</td> <td>2,947,589人</td> <td>3,187,803人</td> <td>3,254,131人</td> </tr> <tr> <td>国際線</td> <td>51,806人</td> <td>70,567人</td> <td>34,609人</td> <td>156,161人</td> <td>206,699人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,106,918人</td> <td>3,234,044人</td> <td>2,982,198人</td> <td>3,343,964人</td> <td>3,460,830人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">国速報値</p> <p>(1) 熊本～ソウル線 平成30年の冬ダイヤにおいて、ティーウェイ航空は週4便から7便に増便し、毎日運航が実現。エアソウルも週2便から3便に増便した。</p> <p>(2) 熊本～大邱線 新たな韓国路線として、平成30年11月29日からティーウェイ航空による週3便の定期便が新規就航した。</p> <p>(3) 熊本～高雄線 平成30年7月にチャイナエアライン本社への知事トップセールスを実施し、台北線開設の要望を行った。路線開設に向けて同社との協議を継続している。</p> <p>(4) 熊本～香港線 平成29年11月から、香港エクスプレスによる定期チャーター便での熊本～香港間の直行便が再開された後、平成30年5月20日から定期便化が実現した。</p> <p>(5) その他の路線 韓国の釜山に本社を置くエアプサンが、平成30年4月から6月までの間、週3便、合計29往復のインバウンド、アウトバウンド双方向の利用が可能な定期チャーター便を運航した。 また、平成30年3月から4月にかけて、台湾に本社を置くエバー航空が、熊本～台北間で合計8往復のインバウンドチャーター便を運航した。</p> <p>2 阿蘇くまもと空港創造的復興推進事業 国による阿蘇くまもと空港運営の民間委託の公募手続において、応募者に県の施策の方向性等を的確に伝え、優先交渉権者として「MSJA・熊本コンソーシアム」が選定された。</p>		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	国内線	3,055,112人	3,163,477人	2,947,589人	3,187,803人	3,254,131人	国際線	51,806人	70,567人	34,609人	156,161人	206,699人	計	3,106,918人	3,234,044人	2,982,198人	3,343,964人	3,460,830人	
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度																							
国内線	3,055,112人	3,163,477人	2,947,589人	3,187,803人	3,254,131人																							
国際線	51,806人	70,567人	34,609人	156,161人	206,699人																							
計	3,106,918人	3,234,044人	2,982,198人	3,343,964人	3,460,830人																							

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名																								
(施策12 - 「大空港構想Next Stage」に基づく阿蘇くまもと空港の復旧・機能拡充)			<p>3 阿蘇くまもと空港拠点性向上事業 阿蘇くまもと空港へのアクセス改善のための調査を実施し、定時性、速達性及び大量輸送性に優れ、事業費を相対的に低く抑えることができる鉄道整備案に決定するとともに、鉄道整備に関する基本的方向性についてJ R九州から同意を得た。</p> <p>4 総合交通体系整備推進事業 阿蘇くまもと空港へのアクセスを改善するため、肥後大津駅(愛称：阿蘇くまもと空港駅(平成29年3月4日～))と空港をつなぐ空港ライナーを無料で運行し、平成30年度の利用者数は過去最高を記録した。</p> <p>【参考：空港ライナー利用者数の推移】</p> <table border="1" data-bbox="902 598 1883 786"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24年度</th> <th>H25年度</th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間利用者数</td> <td>50,897人</td> <td>62,758人</td> <td>77,007人</td> <td>94,606人</td> <td>84,452人</td> <td>97,788人</td> <td>112,659人</td> </tr> <tr> <td>1日当り利用者数</td> <td>138人</td> <td>171人</td> <td>210人</td> <td>257人</td> <td>230人</td> <td>267人</td> <td>308人</td> </tr> </tbody> </table>		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	年間利用者数	50,897人	62,758人	77,007人	94,606人	84,452人	97,788人	112,659人	1日当り利用者数	138人	171人	210人	257人	230人	267人	308人	
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度																					
年間利用者数	50,897人	62,758人	77,007人	94,606人	84,452人	97,788人	112,659人																					
1日当り利用者数	138人	171人	210人	257人	230人	267人	308人																					
<p>【施策13】世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出 施策13 - 世界とつながる国際人材の育成・活躍支援</p>	3,487	2,708	<p>1 くまもと若手芸術家海外チャレンジ事業 官民出資による世界チャレンジ支援基金を活用し、芸術家を目指す学生や若手芸術家9名に対し、海外での研修に係る渡航費及び講習費を支援した。</p>	計画調査費のうち P136 ~ P137																								
<p>5 川辺川ダム問題・水俣病問題・TPPへの対応及び適切な行財政運営 (1) 川辺川ダム問題</p>	1,058,522	931,114	<p>1 川辺川ダム問題に係る総合調整 (1) 球磨川治水対策協議会 戦後最大の被害をもたらした昭和40年7月の洪水と同規模の洪水を安全に流下させることを目標とした治水対策を網羅的に検討し、国土交通省、熊本県及び流域市町村の間で共通の認識を得ることを目的として、平成27年3月に協議会を設置した。 これまで協議会(実務者)を8回、首長会議を3回実施し、協議を続けている。これまでの協議で、引堤や河道掘削、遊水地など個別の治水対策をそれぞれ単独で実施しても目標達成できないことから、複数の治水対策の組合せ案を検討することとした。今後、流域市町村と認識を共有した検討方針に基づき、複数の対策の組合せ案について検討を行うこととしている。</p>	計画調査費のうち P136 ~ P138																								

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(1) 川辺川ダム問題)			<p>(2) 球磨川水系防災・減災ソフト対策等補助金(県補助金 決算額179,526千円) 流域市町村の防災・減災ソフト対策に対する財政支援を行うこととし、その財源とするため、平成27年3月球磨川水系防災減災基金を設置した。 平成30年度は、流域市町村が地域の実情に応じて実施する予防的避難、水防資機材の購入、内水対策など67事業に対して支援を行った。</p> <p>2 五木村の振興</p> <p>(1) ふるさと五木村づくり計画の推進(県交付金 決算額98,190千円) 平成20年末に制定した五木村振興推進条例に基づき、村と共同で「ふるさと五木村づくり計画」を策定。平成30年度は、五木村振興基金(10億円)を活用した財政支援や人的支援(H30は村派遣1名、駐在2名、人事交流職員1名、球磨地域振興局専任職員1名の配置)を行い、農林水産業の振興や観光・交流の促進など59事業に取り組んだ。 また、平成31年度以降の振興策について村と協議を行い、計画期間5年間の新たな「ふるさと五木村づくり計画」を策定し、引き続き村の課題解決に向けた取組みを重点的に支援することとした。</p> <p>【主な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度にオープンした五木村歴史文化交流館のPRを中心に近県旅行会社への訪問営業活動を強化。(観光客数H30:162千人) ・五木産材の流通を担う仕組みづくり(五木源住宅新築・改築数:37棟) ・移住・定住フェアへの参加等によるU・Iターンの促進、村営住宅の設置(4戸) <p>(2) 五木村の生活再建に向けた基盤整備事業の推進(県交付金 決算額391,387千円) 平成23年6月の国、県、村の三者合意に基づき、国の交付金制度のほか、県が表明した総額50億円の財政支援も活用し、平成24年度から村の生活再建に向けた基盤整備事業を実施している。</p> <p>【村が取り組んだ主な基盤整備の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光交流施設整備(水没予定地東部エリア(コテージ等)の整備、宮園地区大イチョウ周辺整備) ・道路ネットワーク(村道折立線外3路線の改良等、林道八重線の開設) ・その他(五木村診療所機能充実、村営住宅整備工事) <p>なお、県は、地元からの要望が特に強い国道445号の整備を引き続き実施するとともに、村道神屋敷線の整備を受託して実施している。</p>	

(企画振興部)

(単位:千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
6 その他 (7) 「熊本復旧・復興4カ年戦略」の推進	10,133	8,162	1 熊本復旧・復興4カ年戦略推進事業 (1) 熊本復旧・復興4カ年戦略の着実な推進を図るため、政策評価や外部有識者10名で構成する「熊本復旧・復興4カ年戦略委員会」の開催(1回)を通じて、各施策の主な成果や課題、方向性を明確化するなど、成果重視の県政運営を図った。 (2) 熊本復旧・復興4カ年戦略の進捗状況を分かりやすく周知するためのパンフレット「進捗レポート2018」を作成、配布し、県民の認知度向上を図った。 (3) 本県における地方創生の実現に向けて、産官学金労言などの関係者が広く課題等の認識共有を図りながら、将来への取組みを推進するため、「幸せ実感くまもと『まち・ひと・しごと』づくり推進会議」の第5回会議を平成31年3月に開催した。 2 県民アンケート調査事業 20歳以上の県民を対象に、以下のアンケート調査を実施し、県民の幸福量を測る指標「県民総幸福量」を算出するなど、本県の政策の評価や立案につなげた。 ・県民の幸福に関する意識調査(平成30年6月実施:回収率47.3%) ・熊本復旧・復興4カ年戦略に関する意識調査(平成30年6月実施:回収率42.1%) ・県民生活や県の取組みに関する意識調査(平成30年6月実施:回収率51.7%)	計画調査費のうち P136~ P137
(8) 御所浦地域振興策の推進	18,421	14,882	1 概要 離島というハンディキャップをできる限り解消し、島民が住み慣れた地域で夢と誇りに満ちた暮らしを実現できるよう、平成27年2月に取りまとめた振興策について、平成30年度も着実に推進した。 2 御所浦地域活性化推進事業(企画振興部) (1) 地域おこし協力隊の配置 地域活性化に取り組むリーダー役として、平成30年度から第2期協力隊を1名配置した。 (2) 移住・定住の促進 移住・定住の促進を図るため、体験モニターツアーを実施し、1名が参加した。 (3) 地域通貨を活用した地域づくり 住民同士が支え合う仕組みを構築するため、地域通貨を活用した取組みを継続実施。依頼会員39名、サポート会員40名、加盟店15店舗が登録。平成30年度はゴミ出しや掃除等945件の支援を実施した。 (4) 観光交流の促進 宿泊型マラソン大会(第4回島あじマラソン大会)を平成31年2月に開催し、関東や九州各県など島外から130名が参加した。	計画調査費のうち P136 ~ P137

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
((8) 御所浦地域振興策の推進)	64,519	63,271	<p>(5) 高速通信網の利用促進補助 平成28年度に整備した高速通信網の利用促進のために天草市が実施する取組に対する補助を実施した。</p> <p>3 御所浦航路振興事業(企画振興部)</p> <p>(1) 定期航路運賃割引事業 御所浦地域の港を発着する定期船の旅客・車両運賃の割引を継続実施した。平成28年度からは当地域住民以外まで対象を拡大し、平成30年度は旅客153,340人、車両43,298台が利用した。</p> <p>(2) 御所浦航路利便性強化事業 ・御所浦～棚底航路 御所浦地域の通学生徒を対象に、海上タクシー利用料金の支援を継続実施。延べ1,956人が利用。 ・御所浦～水俣航路 海上タクシーの週4便から週5便への増便支援(天草市への補助)を継続実施。</p>	計画調査費のうち P137
	1,060	949	<p>(3) 生活航路維持確保支援事業 ・御所浦地域の生活航路に対する運航支援(天草市への補助)を継続実施。</p> <p>4 施設通所等交通費支援事業(健康福祉部) 乳幼児健診の受診者、障がい者福祉施設への通所に要する交通費の無料化支援を継続実施し、27人(延べ1,349回)が利用した。</p>	社会福祉総務費のうち P163
	1,355	1,355	<p>5 御所浦高校生通学支援事業(教育委員会事務局) 高校通学者に対する交通費の無料化支援(天草市への補助)を継続実施し、17人が利用した。</p>	教育指導費のうち P358
	5,148	5,047	<p>6 求む!御所浦Dr.(健康福祉部) 御所浦診療所に勤務する医師への研究手当及び交通費の助成を継続実施し、平日夜間も受診可能な環境を整備した。</p>	公衆衛生総務費のうち P193
	3,990	209	<p>7 御所浦医療施設施設整備事業(健康福祉部) 御所浦診療所・北診療所の施設改修工事に対する支援(天草市への補助)を継続実施した。</p>	公衆衛生総務費のうち P193
	7,333	5,247	<p>8 御所浦医療施設設備整備事業(健康福祉部) 御所浦診療所・北診療所及び御所浦歯科診療所の設備整備に対する支援(天草市への補助)を継続実施した。</p>	公衆衛生総務費のうち P193